

会 議 録

会 議 名	八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 計画策定（若者）部会 令和元年度（2019年度）第5回会議	
日 時	令和元年（2019年） 8月26日（月） 午後5時40分～7時40分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 802会議室	
出席者氏名	委 員	眞保智子部会長、三入重夫副部会長、大島達也委員、加藤悟委員、菅野周平委員、松井優佳委員、渡辺恭秀委員、（部会長、副部会長、以下五十音順）
	関連所管	
	事務局	中山子ども・若者支援担当課長、澤田子どものしあわせ課長、小野主査、後藤主査、田中主査、吉岡主査 他
欠席者氏名		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 第4回計画策定（若者）部会の主な論点 2 委員からの情報提供について 3 中学、高校、大学との連携について 4 若者による地域での活動促進のためには 5 基本方針（若者支援）について 	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	1名	
配付資料名	資料1 第4回計画策定（若者）部会の主な論点 資料2 委員からの情報提供 資料3 若者施策の基本方針（現行計画の施策体系図と若者支援の追加イメージ） 資料4 若者施策の基本方針（若者施策体系案） 資料5 若者施策の基本方針（基本方針5. 若者の成長と社会的自立に向けた支援）	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	令和元年（2019年）9月24日 加藤 悟	

議題1 第4回計画策定（若者）部会の主な論点

【眞保部会長】まず議題の（1）について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料1「第4回計画策定（若者）部会の主な論点」について説明）

【眞保部会長】ありがとうございました。続きまして、議題（2）について加藤委員から説明をお願いします。

議題2 委員からの情報提供

【加藤委員】

（資料2「委員からの情報提供」について説明）

何回かお話ししている内容をまとめたものです。詳しい説明は省きますが、私の経験も書きました。相談を受ける、継続した支援を受ける、本人・家族の意識の変化を生む。それなりに時間がかかることで、いずれのステップも大事ですが、相談を受ける入り口部分が一番重要だということ。

そして、八王子市と東京都による周知に関すること。相談窓口の旗を掲げる。報道機関をうまく巻き込んで応援していただくといいのかな、と思います。

【眞保部会長】ありがとうございました。続きまして、議題（3）です。

議題3 中学、高校、大学との連携について

【眞保部会長】前回、中学生に卒業式のタイミングで相談窓口の周知をすれば効果がありそうだという話がありました。卒業式以外では、周知する場面はありますでしょうか。

【渡辺委員】卒業式は、子どもと保護者両方に周知できるので、いい機会多だと思い提案しました。保護者の理解の必要性は高いと思います。「あなたの一歩、お子様の一歩を応援します」でもいい。ブランドメッセージに絡めたやわらかい雰囲気タイトルの冊子が配布できたらいいだろうと思います。相談窓口はたくさんありますから、そこにQRコードが載っていれば活用しやすいし、さらにキーワードからこんな相談ができるとか、相談して立ち直るきっかけができた子どもの成功体験や保護者の解決事例などが見つかる仕組みになっていたら、活用度が高まると思います。冊子でなくても、学校や市のホームページにバナーがあって、つながる仕組みでもいいと思います。

渡すきっかけとしては、スクールカウンセラーの研修会、進路指導主任の研修会で市

から説明し、パンフレットを配布したらどうでしょうか。そうすれば、必要な生徒に届くと思います。また、卒業した生徒が学校に来ることもありますから、全教員が知っておけば、困っている状況の卒業生に案内できます。これには、校長会で説明したうえで配布するのがよいと思います。

【眞保部会長】先生方皆さんにご理解いただければいいと思います。

高校、大学等現役学生や中退者への支援の状況ですが、菅野委員、いかがでしょうか。

【菅野委員】現役の学生はサポステの対象外ですので、八王子市から委託されている「若年無業者就労促進事業」の枠組みで学生を対象に支援を行っているところです。手元にある資料は、いつからいつまでの期間か、区切りが明確ではない資料ですが、登録者の数は高校以上の学校で57名、進路未決41名、中退後12名、不登校4名。中退前につながっているのはいい傾向かと思います。先生、キャリアセンターなど、学校の担当者の感度によっても連携の度合いが変わってくるのかな、と感じています。

また、担当者の人事異動があると、再度説明しなくてはいけない場合があり、課題かと思います。対策としては、近隣の定時制、通信制の高校の先生を対象に意見交換会を実施したり、学生向けに、職場体験に協力して下さっている企業との交流会を開いたりしています。

課題を抱えて中退した方は、なかなかスムーズに就労に移れませんから、在学中にいかにかに学業と並行して周知していくかが課題であると思います。

【眞保部会長】八王子市の委託事業の枠組みとのことですから、八王子市による周知の方法に工夫の余地があるかもしれません。大島委員、支援の情報はどのように得ていますか。

【大島委員】八王子サポステにはとてもお世話になっているところです。不登校の生徒をサポステにつないだら心境の変化が起こり、登校するようになった事例もあります。

また、都立高校三十数校には東京都からユース・ソーシャル・ワーカーが派遣されていて、中退予防、困りごとに対応し、関係機関とのつなぎ役をしてくれています。多くの情報を持っているワーカーが学校に入ることで、情報には困らずに対応できています。

本人希望があれば、中退した後もワーカーによる支援を2年間受けられることとなっているので、中退したら終わり、という対応はなくなってきています。

【眞保部会長】定時制高校、通信制高校、ユース・ソーシャル・ワーカーの派遣校は情報が届いているようですが、そうでない学校からの登録状況はどうですか。

【菅野委員】登録はありません。

【眞保部会長】カバーできているでしょうか。

【菅野委員】市内にある高校へは、情報提供しています。

【三入委員】中退した後も支援が2年間受けられる制度があるとは、知りませんでした。どれだけ知られているのでしょうか。

【大島委員】教員でも知らない場合があります。

【眞保部会長】退学などが多い学校に絞ってユース・ソーシャル・ワーカーを派遣しているのしょうから、知らない先生もいらっしゃると思いますが、制度自体はとて面白いものだと思います。必要なケースでは本人に伝わらないといけません。

では、次は大学ですが、松井委員、どうでしょうか。

【松井委員】大学は高校と違い、数も多くて前向きな中退もありますし、その後の支援はしていないと理解していますが、もし支援が必要な人に対して支援の存在を知ってもらうのであれば、入学する時に必ず受けるガイダンスで周知されれば、いざという時に思い出すのではないかと思います。

【眞保部会長】確かに入学時のガイダンスで言わないと、他に言う機会がありません。中退後の支援は、大学や学部によって程度の差はあるかもしれませんが、あまりしていないと思います。

次は「(4) 若者による地域での活動促進のためには」です。「活動情報の集約・発信の必要性」と書いてありますが、これについて事務局から説明をお願いします。

議題4 若者による地域での活動促進のためには

【事務局】これまでは、困難を抱える若者に対する支援についてご意見をいただけてきました。この議題に関しては、そこだけではなく、若者が地域の中での活動・体験などに携わる中で、健やかな成長とか自己有用感につながる活動についてご意見を頂ければと思います。例えばBBS会のように子どもに対しての支援であるとともに、大学生の自己有用感につながる活動ですとか、あるいは中学生が小学生の面倒を見る活動の場を用意し、自己有用感を高めてもらうとか、そういう活動も応援していきたい、計画に記載していきたいと考えています。そうした活動についてどのようなものがあるのか、また、そうした活動の必要性や、周知が十分にされているかなどの課題についてご意見を頂ければと思います。

【眞保部会長】では、三入委員、いかがですか。

【三入委員】中学生の現場でいえば、学校の温度差はあれ、例えば盆踊りをするといったときに地域でやる、学校も入る、青少対も入る、そこで子どもたちをどうやって取り込もうかというときに、学校が子どもに言うのとやらせ感が出てしまうので、学校がリードしつつも町会長とか地域主体で動いてもらおうと子どもの参加が増えてきたと、いったことがあります。

また、学校によってはサタデースクールで中学生が小学生の面倒を見るとか、地元の高校生が中学生と関わるとかの活動ができてきています。あと、児童館も自己有用感を高める場として期待できます。行政がうまく中学校とタイアップしてみたいかがでしょうか。

【眞保部会長】八王子市の学校ではいろいろやっているようですから、周知するなら、小・中学校に調査をかけるとか、情報の集約をしてみてもいいかもしれません。ただ、小・中学校単位の活動を全市に向けて周知する必要があるかということ、どうなのかと。身近なところでの周知が必要だということでしょうか。どのような場や方法で知ることができるでしょうか。

【三入委員】学校運営協議会が学校に深く入っていますから、そこで収集・発信するのがいいかもしれません。

【事務局】ひとつ事例を紹介しますと、大学コンソーシアムが大学生による地域貢献活動に対して補助金を出して応援しています。補助金を出しているので活動の情報が集約でき、その活動内容をウェブや情報誌で紹介しています。それをいろいろな人が目にし、地域貢献の考えや活動が広がっていけばいい、そういう取組の例もあります。

【眞保部会長】大学はすでにコンソーシアムを中心にできているということで、高校はどうでしょうか。

【大島委員】ボランティア部が活動したり、あと、当校ではボランティアで単位を取ることができたりしますので、そういう形で生徒が地域活動に参加することがあります。

【眞保部会長】情報の集約・発信の必要性はあるのですが、その具体的な方法については、各事業で考えていくことになるのかと思います。教育委員会とか青少対とかのチャンネルも使いつつ、それぞれの地域で効果的に広報していく必要がある、というところよろしいでしょうか。

では、次は（５）基本方針についてです。

議題5 基本方針（若者支援）について

【事務局】

（資料3～5「若者施策の基本方針」について説明）

【加藤委員】ちょっとよろしいですか。中学生、高校生は、自分はどのような性格かとか、得意分野ですとか、自己を知る機会はあるのですか。適性検査のようなことはしているのですか。というのは、それによって自分の趣味や生きる道に早く気が付くことができれば、登校拒否防止とか、自殺防止とかにつながるかもしれませんし、自己を知る機会を与えてあげてもいいのかな、と思いました。

【渡辺委員】学校では検査はしていませんが、いろいろなことを勉強しますので、その中で何が好きとか、得意なこととかはつかみかけているかな、と思っています。

【菅野委員】サポートステーションでは、職業に関する適性検査と興味関心を図るテストを組み合わせ実施しています。また、人とかかわりの検査的なものですか、いろいろしています。初期の相談では、そういったニーズは高いと感じています。

【眞保部会長】では、資料4、資料5をご覧ください、いかがでしょうか。

では、私から。施策57番ですが、若者といった場合、大学生だけではありません。バランスが必要かと思います。地域での活動に子どもが関わるとというのが健全育成の基本だと思います。そういう事業が地域でなされているということも、ここの取組にあったほうがいいと思います。

施策61番も「大学生等」と書かれていますが、「等」となっているだけでも、大学への進学率は50パーセント程度ですから、表現としては考える余地があるかと思います。

【加藤委員】大学に行っていない人は、大抵、一生懸命働いていますので、地域に参加するのもなかなか難しいものがあります。

【眞保部会長】働いている若者は、経済的に地域を支えていますから、青年会議所とか、つながりがあってもいいかと思います。

【菅野委員】施策62番には具体的な取組が書かれていませんが、若者の就労支援をしている視点からいうと、就職すればすべて解決するわけではありません。家庭、職場以外の第3の居場所が重要なのかな、と考えています。自然な形で立ち寄れて、リラックスした雰囲気ではじめの相談ができたり、地域活動の情報を入手できたり、そういう場所があるといいな、と思います。

【眞保部会長】小・中学生、高校生には、児童館という第3の居場所がありますが、大きくなると行きづらくなります。第3の居場所ということで、おっしゃるとおりかもしれません。

【松井委員】児童館がすでに小・中・高校生の活動の場になっているのなら、児童館を拠点として活性化させていく、ということをして62番に入れてしまってもいいのかな、と思いました。立ち寄れる拠点が八王子市に1つだけでは足が向かない人も出てきますし、児童館であれば、市内に複数施設があり、相談とまでいかななくてもスタッフがいて、地域の情報が集まる機能を持たすことができ、下地がそろっているところからスタートできます。

【眞保部会長】私からも一つ、施策50番のところで、「ニート等若年無業者・引きこもり」とありますが、市民に公開することを考えると、この表現はどのようなだろう、と感じます。東京都の就労支援の会議では、「就労困難者」という看板を掲げたら利用しづらいのではないかと、という意見があり、言葉の見直しを検討しています。八王子市もこの表現はよく考えたほうがいいかもしれません。

【加藤委員】言葉は大切だと思います。「引きこもり」の「ひ」は、ひらがなでもいいかもしれません。

【大島委員】施策53番に、「障害等のある若者」とありますが、障害とまではいかない、あるいは本人が障害とは考えていない人への支援は、ここに挙げられている取組に含まれているのですか。

【子ども・若者支援担当課長】そういった方たちへの支援は、課題として認識しているところです。

【眞保部会長】保健師によるこころの健康相談などは、それに当たるのかもしれません。

この施策53番も、ほかにいい表現があればいいのですが。

それから、八王子は大学コンソーシアムがありますから、まだ大学生が活動する場を提供できていますが、大学生が地域活動とかボランティアに参加するのは、かつてと比べると難しくなっています。大学生だけでなく、大学生以外の若者にも地域にかかわってもらえるような場を提供することが大事だと思います。

今の大学生は、昔と違って余裕がありません。出席、単位取得、就職活動の前倒し、余裕があるのは1年生の夏休みくらいという実態があります。そこにアルバイトやサークルの予定も入ってくれば、地域のボランティアには出てこないでしょう。行政が若者

とともに何かしたいのであれば、相当な仕掛けをしないと難しいと思います。

松井委員、いかがですか。

【松井委員】1年生のころは、大学の授業、アルバイト、サークルなどで時間が取れない中で、どういう活動が八王子にあるのか知らないまま、毎日の生活を追われていました。八王子BBSへ参加する人も、早くて2年生の春からとか、遅い人だと4年生の途中から参加する人もいます。ですので、早いうちから学生への働きかけがあって、地域に参加できるようなボランティアが紹介されれば、学生側も早いうちから地域に協力しようという気持ちが芽生えてくるかと思います。

【眞保部会長】サークルに入りますか。それとも、将来役立つボランティアに参加しますか。どちらを選びますか。と、これくらい強い打ち出しをしないと、なかなか地域には出てこないでしょうね。大学生をパートナーとみるのは、大人の希望であって、本人たちに余裕はありません。アルバイトも遊ぶお金のためではなく、就職活動を見据えて前もってアルバイトをしてお金をためているとか、切実な事情があります。援助する余裕のない保護者もたくさんいますので。

「ともにつくる八王子のミライ」というのであれば、大人の希望だけでは、だめでしょうね。実態をわかったうえで仕掛けを施す必要があります。

【渡辺委員】どこの市だったか定かでないですが、団地の再生に若者を取り入れるために、学生が入居する部屋を確保して、安く提供する代わりに、地域活動に何回以上参加する。とかいう事例がありましたよね。

公営住宅のいくつかの部屋を確保し、学生に入ってもらい、地域活動に参加してもらおう。参加すればその楽しさがわかりますし、楽しさがメリットになれば、参加するきっかけになります。拠点をつくるならば、その団地の集会所に若者の拠点を置き、例えば子ども会に対してこんな企画をしようとか、そういう機能を持たせてみたらいいと思います。さらに、その仕組みを大学も知っているような関係がいいでしょう。

八王子市も、仕掛けを、ということならば、そういう地域づくりのパイロットをつくってみるのも面白いかもしれません。地方からきた学生も、八王子にこのまま住もう、と思ってくれるかもしれません。

【眞保部会長】私どもの大学、学部でも、館ヶ丘団地を拠点として地域づくりにかかわっています。教員と自治会の関係で始めたものですが、場があったので、ずっと継続的にできています。

【渡辺委員】 意欲のある学生が集まれば、いろいろできると思います。子ども会の担い手も今、いませんからね。

【眞保部会長】 子ども会の担い手も、ひとつのサークルみたいにして募集してみたら、集まるかもしれません。子ども会の手伝いといったような活動は、学生もイメージしやすいでしょうから。

では、本日の議題は以上になります。事務局から連絡事項はございますか。

【事務局】 次回は子どもの計画部会との合同開催となります。また、今後、本日お示しした体系に基づいて中身をつくっていくのですが、その内容につきましても部会でお示しして、意見をいただく場を持ちたいと考えております。予定外ではございますが、部会長と相談させていただいたうえで、可能であれば、9月末ころに追加で部会を開催したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

【眞保部会長】 以上、よろしいでしょうか。遅くまでお疲れ様でした。